

児童の主体的な探求を深める生活科の時間の構想
～「つくろう あきのおくりもの」の学習を通して～

日立市立会瀬小学校

1 はじめに

本校は校舎が幼稚園舎と接しているので、扉一まいで行き来することができる。この立地条件を活かして、1年生と園児の交流を頻繁に行うことができる。朝顔の苗のプレゼントやあいさつ運動などを行っている。また、中庭の野草園（ぼうぼう園）が園庭と接しているため、草花や虫の観察時に活動に興味をもった幼稚園生が集まってきて、児童が説明をするといった交流もある。今回の実践では、小学校学習指導要領解説生活編の目標（２）「自然を身近な動物や植物など自然とのかかわりに関心をもち、自然の素晴らしさに気付き、自然と大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする」に基づき、秋を感じながら作ったおもちゃで楽しみ、さらに幼稚園生を招待して一緒に活動するための工夫をすることで、自分の良さや成長に気付くことをねらいとしたものである。

2 指導案

（１） 単元名 つくろう あきのおくりもの（おもちゃまつりをひらこう）

（２） 目 標

○ 園児を招待して一緒に遊ぶことを楽しみにして準備をしようとしている。

（生活への関心・意欲・態度）

○ 園児の立場になって考え、遊びの準備をすることができる。

（活動や体験についての思考・判断）

○ 園児に上手に接することができた自分の成長に気づくことができる。

（身近な環境や自分についての気付き）

（３） 単元について

本単元は、小学校学習指導要領生活科の内容（６）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする」を踏まえて設定したものである。身近にある自然を利用したり、遊びに使うものを自分で工夫して作ることを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊ぶことを楽しむことが大切である。また、幼稚園生との交流を通して、お兄さん・お姉さんとして接する自分の成長に気付かせることもねらいとしている。

児童は、生活科の活動を好み、意欲的に取り組んでいる。秋の素材で作ったおもちゃを使って、祭りを開くことに興味関心が高く、とても楽しみにしている。また、そのお祭りに幼稚園生を招待することを知り、より意欲が高まってきている。児童の中には、自分が幼稚園生の時に「おもちゃ祭り」に招待され、今度は自分たちがと考えている子も多い。これまでの幼小交流からお兄さん・お姉さんとして幼稚園生に接しようという意識が高まっていることが感じられる。

指導にあたっては、祭りを作り上げる活動を通して、自分たちでおもちゃを作り、遊ぶ楽しさを感じ、幼稚園生を招待して共に遊べる楽しさや喜びを味わわせていきたい。また、自分のこと

に夢中で、周りのことに気を配ることができにくい1年生のこの時期に幼稚園生とふれ合うことは、自分の成長に気付くよいチャンスである。「自分が楽しむ」から「みんなに楽しんでもらう」ことを意識させ、工夫・表現できるようにさせたい。

(4) 指導計画(9時間扱い) ○は本時

次	時	主な学習活動	評価の観点
1	1	・おもちゃ祭りのコーナーを考え、担当を決める。	・自分の考えを出し合って、おもちゃ祭りを盛り上げようとしている。 (関心・意欲・態度：行動観察・記録)
	② 3 4	・園児を招待するために、グループ毎に必要な道具を作ったり、ルールを決めたりして、出店の準備をする。	・園児を招待して遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考えて、準備やルールを工夫することができる。(思考・表現：発言・行動観察)
	1 2	・園児を招待して一緒に遊ぶ。	・園児に進んで関わり、一緒に楽しく遊ぼうとしている。(関心・意欲・態度：行動観察)
	1	・嬉しかったこと、頑張ったことについて振り返る。	・園児に上手に接することができた自分の成長に気付くことができる。(気付き：行動観察・記録)

第2次 どんなあき こんなあき・・・・・・・・・・2時間

(5) 本時の学習

① 目標

おもちゃ祭りを開き、幼稚園生を招待するためにどんな準備をすればよいか話し合い、作業することができる。(思考・表現)

② 準備・資料

・「おもちゃまつり」ワークシート ・各自用意した材料

③ 展開

学習活動及び予想される反応	教師の働きかけ	◎個に応じた支援	◎評価
1 本時のめあてを確認する。	おもちゃまつりにひつようなものをかんがえて、じゅんぴをしようをしよう。		
○前時までに分担したコーナー別グループで話し合うことを伝える。 ○学年で遊ぶのも楽しいが、自分たちで遊ぶだけでなく、園児を招待することで、自分の成長に気付く活動につなげる。 ○幼稚園生にも分かりやすいおもちゃやゲームになるように考えることを助言する。			
2 グループに分かれて、祭りの出店の準備をする。			
 《どんぐりごま・ぶんぶんごま》	《楽器・シャッフルゲーム》 	- 6 -	

- ・何個作ればいいかな。
- ・どんぐりに絵や模様をつけよう。

○どんぐりの種類を考えて、回しやすい工夫ができるよう助言する。



《すごろく・迷路》

- ・大きな空き箱があるね。
- ・どのどんぐりが転がりやすいかな。

○どんぐりや松ぼっくりを転がすためのコースの大きさを考えるよう助言する。

- ・マラカスは、カプセルもつかえるかな。
- ・紙コップは、同じ色にするといいね。

○マラカスのほかにどんな楽器ができるか、試しながら作るよう声をかける。



《的当て・玉入れ》

- ・的の点数をつけると、おもしろいね。
- ・幼稚園生と小学生の投げる位置を変えよう。

○幼稚園生でも的に当てたり、かごに入れられたる大きさを考えるよう声をかける。

《絵合わせ》

- ・いろんな種類の葉っぱを集めよう。
- ・色や形で組み合わせよう。

○葉っぱの種類が集まらないときは、葉っぱを型どりしてもよいことを助言する。



《けん玉・やじろべい》

- ・カップの大きさを変えよう
- ・いろいろな長さのひもを用意しよう

○試してみながら、幼稚園生でもカップに入れられる工夫をするようアドバイスする。



《お人形・どんぐりつり》

- ・松ぼっくりも使えそうだね。
- ・どんぐりを魚につけよう。

○人形を使ってどのように遊ぶか、考えるようアドバイスする。

《おばけやしき》

- ・ダンボール箱でトンネルにしよう。
- ・松ぼっくりをぶらさげよう。

○ダンボール箱を丈夫につなぐ工夫をするように助言する。



- グループの中で、分担をし、誰もが責任をもって取り組む仕事を持つように助言する。
- おもちゃ作りに必要な材料を、グループ同士で交換し合って上手に活用できるようアドバイスする。
- 作業をしながら思いついたよいアイデアをどんどん試し、取り入れていけるよう支援する。
- ◎活動に取り組めない児童には、自分のやりたいことを聞いて、グループの中で何ができるか一緒に考え、取り組めるように支援する。
- ◎作業の進みの早い児童には、グループの遅れがちな友達を手助けするよう声をかける。

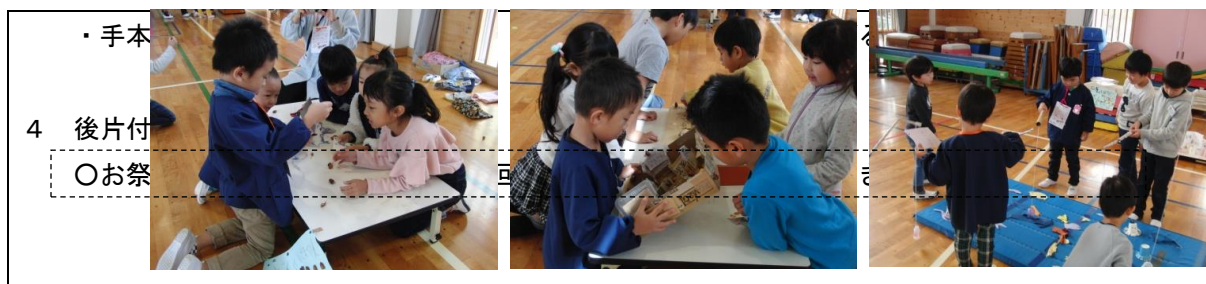
㊦ 幼稚園生と一緒に楽しめるようするためにどんな準備をしたらよいか工夫しながら、おもちゃ作りを進めることができたか。 (行動観察・つぶやき《思考・表現》)

3 本時を振り返り、次時の活動を確認する。

- ・協力して活動できたね。
- ・数はたりるかな。
- ・材料が足りないね。用意しなくちゃ。
- ・看板も作りたいね。

○自分の考えを出し合い、協力して活動できたか振り返らせる。

○次の活動で何をするか、何を用意するかを確認することで、次時の活動への



3 資料

幼少交流 おもちゃ祭りの 様子



あそびのフェスティバル

ようちん せいとおそんて なかにならう。

したこと	がんばったこと・かんそう
おはけけしきの出	わがまにきいをいれ、しん
① つり	おはけけしきを出して、しん
② シャッフルゲーム	おはけけしきを出して、しん
③ しん	おはけけしきを出して、しん

①ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

②ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

③ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

あそびのフェスティバル

ようちん せいとおそんて なかにならう。

したこと	がんばったこと・かんそう
わなげ	わなげとたまいの
たまいの	わなげとたまいの
ボーリング	わなげとたまいの
① わなげ	わなげとたまいの
② たまいの	わなげとたまいの
③ ボーリング	わなげとたまいの

①ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

②ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

③ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

あそびのフェスティバル

ようちん せいとおそんて なかにならう。

したこと	がんばったこと・かんそう
わなげ	わなげとたまいの
たまいの	わなげとたまいの
ボーリング	わなげとたまいの
① わなげ	わなげとたまいの
② たまいの	わなげとたまいの
③ ボーリング	わなげとたまいの

①ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

②ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

③ようちんせいとおそんてなかにあそぶ。

児童ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学年内だけでなく、幼稚園生がお祭りに参加することで、準備の段階から意欲的に取り組むことができた。小さい子を楽しませるために、どんなおもちゃを作るか、どのように接したらよいかなどを一生懸命に考えることができた。
- ・幼稚園生が喜んで遊んでいる様子や何度も自分のコーナーに遊びに来てくれることで、自分の関わり方に自信を持ち、ただおもちゃで遊ぶ以上の楽しさや喜びを実感できていることが分かった。
- ・秋の素材（落ち葉、どんぐり、松ぼっくりなど）を使うことで、季節を味わうこと、素材の色や形を活用しておもちゃ作りに取り組むことができた。
- ・おもちゃ作りの中で、互いにアイディアを出し合いながら作業を進めることで、友達の

考えの良さを認め合うことができた。

(2) 課題

- ・ 作りたいおもちゃへの児童の思いを十分達成できるような、また、実現困難なものについても児童が納得し改善していけるような助言や支援の仕方を研究していきたい。
- ・ 自然の素材を使うので、早めに計画準備をし、児童と材料探しをするとともに、保護者への協力を呼びかけていきたい。